

8/14 早稿

年齢、たばこ 抗体量に差

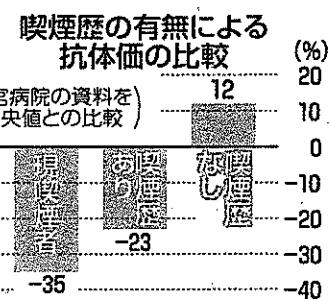
60s 70代 20代の半分 喫煙者 35% 低く

新型コロナウイルスワクチンの効果について、高齢者や喫煙者は低下しやすいことが、国立病院機構宇都宮病院の研究で分かった。同接種から三ヶ月後の抗体価は、六十代が二十代の半分しかなく、喫煙者が全体の中央価よりも三割以上低かった。

研究チームは「高齢者は半年おきのワクチン再接種が必要」「禁煙は感染リスクを軽減できる」としている。研究対象は、「二ヶ月にアイザーウィックチンを接種した同病院の職員三百七十八人。三ヶ月後の抗体価の中央値は、血液一ミリリットル当たり七六四ユニットで、二十代の男女の約一〇〇〇ユニットに対し、六十代・七十代は男女とも約五〇〇ユニットにとどまった。年齢が上がるほど、抗体価は下がる傾向があった。

研究では、五一～六十歳の職員六人について、接種二回目の三ヶ月間後、二回目の二週間後、三ヶ月後の抗体価も比較した。六人とも一回目から二回目にかけて、抗体価は十～二十倍に上昇したが、三ヶ月後には三分の一から五分の一に低下。二回目と同程度まで落ちた人もいた。

また、喫煙歴でも比較。三ヶ月後の抗体価は中央価よりも、喫煙者のが抗体価は35%低かった。研究チームの杉山公美弥副院長は



喫煙歴の有無による抗体価の比較

(ワクチン2回接種3ヶ月後、宇都宮病院の資料を基に作成。喫煙歴は各年代の中央値との比較)

12
10
0
-10
-20
-30
-40

喫煙歴なし 喫煙歴あり

り七六四ユニットで、二十代の男女の約一〇〇〇ユニットに対し、六十代・七十代は男女とも約五〇〇ユニットにとどまった。年齢が上がると、抗体価は下がる傾向があった。

研究では、インド由来のデルタ株の四歳の職員六人について、接種二回目の三ヶ月間後、二回目の二週間後、三ヶ月後の抗体価も比較した。六人とも一回目から二回目にかけて、抗体価は十～二十倍に上昇したが、三ヶ月後には三分の一から五分の一に低下。二回目と同程度まで落ちた人もいた。

また、喫煙歴でも比較。三ヶ月後の抗体価は中央価よりも、喫煙者のが抗体価は35%低かった。研究チームの杉山公美弥副院長は

「喫煙は接種直後の抗体産生には影響しなくても、抗体の維持に影響する可能性がある」と話す。男女の抗体価の差は喫煙習慣の差とトにとどまつた。年齢が上がりほど、抗体価は下がる傾向があった。

研究では、印度由来のデルタ株の四歳の職員六人について、接種二回目の三ヶ月間後、二回目の二週間後、三ヶ月後の抗体価も比較した。六人とも一回目から二回目にかけて、抗体価は十～二十倍に上昇したが、三ヶ月後には三分の一から五分の一に低下。二回目と同程度まで落ちた人もいた。

また、喫煙歴でも比較。三ヶ月後の抗体価は中央価よりも、喫煙者のが抗体価は35%低かった。研究チームの杉山公美弥副院長は

抗体価（抗体）の量や強さ。血液検査で測定する。新型コロナウイルスのファイザーウィックチンは、ウイルス表面にあるスパイクタンパク質への抗体を作成するよう誘導する。この抗体は、ヒトの細胞へのウイルス結合を阻害する働きがあり、ワクチン接種後の抗体獲得を示す主な指標だが、ワクチンの有効率は感染者数で公表するため、感染予防に資する抗体価の実数は不明。

※13日現在、単位は人、感染者の多い5カ国による
(一)内は死者数。
世界の新型コロナウイルス感染者

	米国	3630万6963 (61万9093)
インド	3211万7826 (43万0254)	
ブラジル	2028万5067 (56万6896)	
フランス	646万9753 (11万2700)	
ロシア	646万8890 (16万5996)	
インドネシア	377万4155 (11万3664)	
タイ	86万3189 (7126)	
韓国	22万0182 (2144)	
中国	10万6348 (4848)	
オーストラリア	3万8165 (949)	
世界	2億0549万8261 全体	(433万5943)